

夏秋トマトの幼苗接ぎ木に適した台木品種選定及び接ぎ木方法

農業研究センター 高原農業研究所

担当者：桑野 伸晃

研究のねらい

従来の呼び接ぎ等に比較し省力的な接ぎ木方法である幼苗接ぎ木法について、青枯れ病、萎ちょう病に抵抗性を持つ台木品種の選定を行う。また併せて活着率の向上を目的として、接ぎ木部位の茎の太さを揃えるための、穂木と台木の播種日の間隔を明らかにする。

研究の成果

- 1 台木品種の収量性は、「桃太郎」の台木としては「ヘルパーM」が可販果収量が高く、外品率も低く安定しており有望である。「桃太郎8」の台木としては「アンカーT」「新メイト」の2品種が可販果収量が高く有望である。
- 2 「ヘルパーM」「アンカーT」「新メイト」については、可販果収量が白根より高くなっており、夏秋トマトに幼苗接ぎ木を用いた場合にも収量の低下はみられない。
- 3 接ぎ木位置については、地際と0節間(双葉の下)と0節と1節間(双葉の上)で明らかな生育差は見られないが、地際と0節間で接ぎ木した場合、穂木から発根し、根付く株が見られるため、0節と1節間での接ぎ木が望ましい。
- 4 幼苗接ぎ木を用いる場合、品種により穂木と台木の播種日の間隔を変え茎の太さを揃える必要があり、0節と1節間(双葉の上)で接ぎ木する場合「LS-89」で穂木より2日程度遅く、「カップル0」「ヘルパーM」は同日に、「新メイト」は1日前~同日、「アンカーT」「影武者」「カップルT」「がんばる根」「がんばる根3号」では2~3日早い播種が必要である。

普及上の留意点

供試品種は全て青枯れ病に対して耐病性を持つが、耐病性の強さは品種間で差異がみられるため、青枯れ病の発生の恐れがある圃場では「桃太郎」の台木としては「LS-89」を、「桃太郎8」の台木としては「新メイト」「がんばる根」「がんばる根3号」等の耐病性の強い品種を使用する必要がある。

表1 葉数及び茎径

(20株調査 平成7年3月15日播種)

品種	調査日	葉数		0~1節茎径*1		節間長*2
		4/3	4/5	4/3	4/5	4/5
		枚	枚	mm	mm	mm
桃太郎		2	3	0.9	1.2	5.7
カップル0		2	3	0.9	1.2	5.5
ヘルパーM		2	3	1.0	1.2	7.5
LS-89		4	4	1.1	1.5	5.4
桃太郎8		2	3	1.0	1.3	5.4
アンカーT		2	2	0.9	1.0	4.3
影武者		3	3	1.2	1.3	7.9
カップルT		2	2	1.1	1.2	4.7
がんばる根		2	3	1.1	1.1	6.0
がんばる根3号		3	2	1.1	1.1	5.7
新メイト		2	3	0.9	1.2	4.8

*1 0節から1節の中間の茎径を測定

*2 0節から1節間を測定

表2 台木品種の収量に及ぼす効果

(10株当たり kg)

品種	台木品種	H7		H8	
		可販果	外品	可販果	外品
桃太郎	桃太郎白根	31.84	9.07	29.58	9.86
	カップル0	23.61	9.51	28.71	6.61
	ヘルパーM	36.27	9.24	31.64	8.92
	LS-89	27.90	8.90	28.75	7.47
桃太郎8	桃太郎8白根	30.83	7.33	33.83	10.60
	アンカーT	32.23	9.46	34.79	10.72
	影武者	33.58	10.23	32.27	10.17
	カップルT	29.88	9.92	34.36	13.52
	がんばる根	28.23	10.91	31.59	9.68
	がんばる根3号	26.32	9.71	34.42	10.22
	新メイト	31.71	9.47	36.28	11.10